

仏教の故地復興に奔走

比叡山で修行のインド人僧

波瀾万丈!

インドの大地に仏教復興

日本の心をもつインド人仏教僧・奮闘記

サンガラトナ・法天・マナケ著

教育・医療 福祉…活動 「一隅照らす」実践

かえった。

住職は、本書の著者で、比叡山延暦寺(大津市)で十五年間修行したインド国籍の天台僧サンガラトナ・法天・マナケ氏(西五)。九歳で来日して大乘仏教を学び、帰国後

した政治家B・R・アンベドカル博士の遺志を継がせようと、博士の側近だった父がマナケ少年を日本に送り込んだ。博士は生前、「日本の大乘仏教僧のような人たちがインドで育てたい」ともら

悪戦苦闘ぶりなどが率直に語られる。

教育・医療・福祉など多岐にわたる現在の活動に通底するのは、日本に東漸した仏教を再び故地に返し、再興したいという願い。それはそのまま、宗祖伝教大師の教え「一隅を照らす」の実践につながっている。

混沌のインド社会で蹉跌(さてつ)を乗り越え、前進をあきらめない著者の情熱に打たれる。

定価一、八九〇円、春秋社(電話〇三・三三五五・九六一)刊。



新刊

インド中部、新仏教の聖地ナグプールに近い田舎町ポーニ。今月八日、同地に立つ天台宗禪定林で大本堂の落慶法要が営まれ、群集する仏教徒たちの喜びと熱気であふれ

中外圖書室

は孤児院・学校運営や巡回医療などに打ち込んできた同氏の波乱に富んだ半生をつづった。カースト打破を叫び、数十万人の被差別民衆とともにナグプールで改宗

していたといっ。本書では「不可触民」階層出身の生い立ちや、師僧・堀澤祖門氏(叡山学院長)との出会い、インドと日本のはざまで動

揺した青春期、帰国後の